

其滯京中石井特使ハ數次國務長官「ランシング」ト會見シ諸般ノ問題ニ付協議スル所アリタルカ九月十日ノ會見ニ於テ在米日本人待遇問題ニ言及シ將來ニ於ケル排日立法豫防ノ目的ニテ珍田大使「ブライアン」國務長官間ニ一種ノ協定ヲ結ハントノ議アリタルコトヲ述ヘ本問題ニ關シ國務長官ノ意見ヲ徵シタルニ國務長官ハ取調ノ上挨拶スヘキ旨答ヘタルモ其後同長官ハ取調ノ違ナカリシトテ竟ニ意見ヲ表示スルコトヲ避ケタリ帝國政府ニ於テハ兩國ノ親善關係増進上珍田「ブライアン」協定案ノ成立ヲ切望スル所ナリシヲ以テ石井特使ニ對シ同特使離京前國務長官ニ再應懇談スヘキ旨訓電スル所アリシモ同特使ハ國務長官ニ於テハ我所望ヲ諒トスル所アリタルモ當時之ヲ議スルニ好適ノ時機ニアラストノ見地ヨリ更ニ交渉ノ步ヲ進ムルノ意ナキヲ看取シ且周圍各般ノ事情ニ顧ミ必スシモ米國政府ニ本件交渉ヲ強ユルノ利ナキヲ認メタルヲ以テ成ルヘク最近ノ機會ニ於テ佐藤大使ト談話ヲ繼續スル様國務長官ニ希望シ同官ヲシテ之ニ同意セシムルニ止メタリ斯シテ特使ハ支那ニ關スル所謂石井「ランシング」協定ノ取極其他ノ交渉ヲ遂ケタル後十一月三日華府出發歸朝ノ途ニ就ケリ

第十章 一九一七年米國移民法及紳士協約ノ解釋

適用ニ關スル若干問題

一九一七年米國移民法制定後最近ニ至ルマテノ間ニ於テ同法竝ニ紳士協約ノ解釋及日本人上陸禁止ニ關聯シ日米兩國間ニ交渉ノ目的トナリタルモノ尠カラス其中主要ナル問題ハ

- (一) 寫眞結婚婦人竝ニ夫ト同伴セサル妻ノ入國
 - (二) 會社員店員ノ入國
 - (三) 不正入國者ノ再渡航竝ニ其家族ノ呼寄
 - (四) 養子ノ入國
- ニ關スルモノナリトス以下之等諸問題ノ要旨ヲ敘述スヘシ

第一節 寫眞結婚婦人竝ニ夫ト同伴セサル妻ノ入國

一、寫眞結婚婦人ト讀書試驗

一九一七年米國移民法第三條中渡航者ノ妻ニ對スル讀書試驗ニ關シ

Sec.....: Provided, That any admissible alien..... may bring in or send for his father or grandfather over fifty-five years of age, his wife, his mother, his grandmother,..... if otherwise admissible, whether such relative can read or not :.....

ナル規定アリ同年四月在「ホノルル」諸井總領事ハ同地移民局長ニ對シ該條項ニ定ムル讀書試験ヲ寫眞結婚婦人ニ適用スルヤ否ヤニ關シ問合セタルニ同局長ハ該婦人ノ入國ノ際ニハ未タ適法ノ妻ト見做サレサルヲ以テ法文ノ解釋上讀書試験ヲ執行スルコトニ決セル旨回答セリ然ルニ實際行ハルル讀書試験ハ假名ヲ附セサル漢字交リノ日本語試験ニシテ尋常小學卒業ノモノト雖モ合格シ得サル困難アルニ付日本政府ニ於テハ (イ) 試験文ハ主トシテ假名トシ漢字ニ對シテハ假名ヲ附スルコト且 (ロ) 寫眞結婚婦人ハ從來米國官憲ニ於テ適法ノ妻ト見做サレサルモ事實ニ於テハ日本法規ニ從ヒ結婚入籍後六ヶ月以上ヲ經過シタル上米國ニ在ル夫ノ許ニ赴クモノナルヲ以テ此際適法ノ妻タルコトヲ認メシメ讀書試験免除ノ利益ヲ享ケシムル様交渉方在米佐藤大使ニ訓電シ同大使ハ

(一) 讀書試験ニ付テハ累次ノ交渉ノ結果五月勞働省ニ於テハ地方當該官憲ニ對シ試験問題ハ總テ假名ヲ附スルコトトスヘキ旨訓令シ

(二) 寫眞結婚婦人ニ付テハ日本ニ於ケル法律並ニ習慣ニ基ク結婚成立事情ヲ反覆説明シ折衝ヲ重ネタル爲米國側ニ於テハ日本ノ主張ヲ容レ同婦人ヲ正式ノ妻ト認ムルコトニ決シ五月勞働省ヨリ地方當該官憲ニ對シ戸籍謄本及婚姻當事者カ戸籍吏ニ提出シタル婚姻届ノ認證謄本ヲ携帶スル者ニ對シテハ其結婚ノ存在ヲ認メ之ニ讀書試験ヲ行ハサルコトトナスヘク現ニ航行ノ途中ニアル者ニ對シテハ前記認證謄本ヲ提出セシムルコトトシ差支ナシト爲セリ (附屬書第七十八號)

二、同伴セサル妻ノ入國

然ルニ一九一七年移民法施行細則 (Immigration Rules—Rule 4 Subd. 7) ニ依レハ妻カ夫ト同行セサル場合兩者ノ夫婦關係ヲ證明スルニハ a certificate of marriage or other convincing proof of the performance of the ceremony ヲ指示スルコトヲ要ストアリ然ルニ日本ニ於テハ法律上又ハ事實上 certificate of marriage ニ代用セラルルモノハ戸籍抄本又ハ謄本ニシテ右ハ結婚關係ノ證明書トシテ歐洲人ノ結婚證書ニ優ルトモ劣レリト決シテ見ルコトヲ得ス又婚姻届ノ認證謄本ノ發給ニハ手續上種々面倒ナル事情アルヲ以テ政府ニ於テハ婚姻届ノ認證謄本ノ代リニ市町村限リニテ容易ニ發給シ得ル婚姻ノ事實證明書ヲ提携セシムルコトトナシ得ル様交渉スヘキ旨五月在米代理大使ニ

訓令シ同大使ハ米國當局ト數次折衝ヲ重ネタル所アリタルカ初メ米國側ノ態度執拗ニシテ我主張ヲ容ルル所ナカリシカ終ニ八月末勞働省ニ於テ當事者結婚ノ事實ヲ記載セハ戶籍謄本ノ提出ノミヲ以テ十分ナリト認メ其旨地方當該官憲ニ訓達スヘキ旨國務長官ヨリ回答シ來レリ（附屬書第七十九號）

三、寫眞結婚ニ關スル米國勞働省ノ通牒

其後一九二二年五月在「ホノルル」山崎總領事ノ報告ニ依レハ同地移民局長ハ寫眞結婚ハ移民法適用上有効ト認メストノ米國勞働省決定（四月二十二日附通牒）ニ基キ今後寫眞結婚ニ依リ入國スル婦人ニ對シ讀書試驗ヲ行フヘキ旨公表セル趣ナリ仍テ在米大使館ヨリ國務省ニ照會シタルニ七月十七日同省ヨリ勞働省ハ四月二十二日所謂 Proxy marriage ハ移民法ノ適用上有効ト認ムルヲ得ストノ主義ヲ決定發令シ且此主義ハ人種又ハ國籍ノ如何ヲ問ハス適用スルモノナリト回答シ越シ（從來ノ方針ヲ一變ス）其後大使館側ノ質問ニ對シ今回發令ノ動機ハ實際問題トシテハ從來寫眞結婚婦人ニ附與シタル特典即チ讀書試驗ノ免除傳染病患者ノ治療又ハ公共ノ負擔トナル虞アル場合ノ特別取扱ヲ廢スルカ爲ナリト説明セリ日本政府ニ於テハ米國カ寫眞結婚ヲ移民法適用上有効ト認メサルコトハ之ヲ禁止スルコトニアラスト解スヘク又人種又ハ國籍ノ如何ヲ問ハス一般ニ

適用セラルルモノトセハ之ニ對シ抗議スルノ實益ナキヲ以テ暫ク今後ノ米國ノ取扱振ヲ注意スルコトトセリ（一九一九年十二月帝國政府ニ於テ米國大陸行寫眞結婚婦人ノ渡航制限ヲ聲明シタル經緯ニ付テハ第十一章參照）

第二節 會社員店員等商業使用人ノ入國

一、正金支店員ノ上陸禁止

一九一七年十月在「ホノルル」横濱正金銀行員根岸余吾ハ同地官憲ニヨリ上陸ヲ拒絕セラレタルヲ以テ同年十一月在米佐藤大使ハ政府ノ訓令ニ基キ一九〇二年ニ於ケル同行員上陸許可ノ先例ヲ指摘シ國務省ニ懇談シ同人ノ入國許可方ニ付折衝スル所アリシモ翌一九一八年一月勞働省ニ於テハ一九〇二年ノ取極ハ同省分立前ニ行ハレタルモノニシテ其主義ハ判決例其他ニ依リ既ニ久シク廢棄セラレ居リ本件ハ現在ノ法規及慣例ニ從ヒ之ヲ取扱フノ外ナク從テ右入國拒絕ノ決定ヲ翻スノ餘地ナシ又本件ハ外國人一般ニ適用スルモノナリト回答シ來レリ（附屬書第八十號）

依テ在米田中代理大使ハ政府ノ訓令ニヨリ一月國務省當局ニ對シ法規ノ如何ハ別トスルモ會社店員ノ渡航ヲ拒絕スルニ於テハ通商上支障ヲ來シ日米條約上ノ通商自由ノ趣旨ニモ反スルコトヲ指